

1. 地震ハザードマップを知っていますか (地震、津波から命を守るために)
2. 市民が始める食品・土壌の放射能測定
3. 粉塵対策市民目線で
4. 中央ネット代表挨拶
5. 使いやすい意見陳述制度に改善を
6. 区長訪問
7. これからの公民館を考える
8. お知らせ

地震、津波から命を守るために

あなたの町の

『地震ハザードマップ』を知っていますか？

私達は、東日本大震災で、震度5強、5弱を経験し、これから起こると想定されている首都直下型『東京湾北部地震』では震度6弱、6強～7も想定されています。まずは、命を守るため、自分の町、家の耐震性を知り的確な判断と対策をとりたいものです。

千葉市は、『地震ハザードマップ』(揺れやすさ)を作成し、平成21年6月に新聞折り込みで全戸配布しましたが、残念ながら、認識度は低いようです。

まずは、市役所で『地震ハザードマップ』を手に入れましょう。ただし、現在、国の中央防災会議が見直しの検討に入っているため、改訂の計画があります。

千葉市の住宅の耐震化率は？

千葉市全体での耐震化率は、
戸建住宅 71.7%、共同住宅 92.3%、

合計 84.0%です。(平成22年現在)

(これは、昭和56年以降に建てられた家は、震度6強で倒壊しないという前提での国の計算結果です。)

今後、古い木造住宅の密集地域における耐震化

が急務とされています。行政の各地域への効果的な働き掛けを求めます。さらには個人、町内会等においても住宅の耐震化に努める必要があります。

千葉市には

『津波ハザードマップ』はまだありません！

千葉市では、今まで津波の想定は50cmとしていたため、『津波ハザードマップ』はありません。3.11の津波を受け、国、県は津波の見直しを始めました。県は『津波避難のための津波浸水予測図』を4月以降にインターネットで公開します。各市町村はこれを受け、『浸水予測図』を作成します。出来るのは年末くらいとのこと。

3.11では、千葉市は93cmの津波を観測し、満潮に近かったため平均水面より1.7m高くなりました。その時、水門の閉鎖が間に合わず、排水路を津波が遡上したり床下浸水した住宅もありました。これは、水門の開閉が手動であり、情報伝達の遅れと交通渋滞等により閉鎖が間に合わなかった事によります。これは緊急時の対応に即応していません。県は、今後、遠隔操作による水門の閉鎖を検討するとしていますが、まだ時期は決まっていません。



▲ 津波に注意

この地盤は

海拔 **4m**

千葉市

海拔表示板：例

命を守る

『防災情報の伝達』を知っていますか？

緊急時に『正しい情報を瞬時に伝える』これこそが命を守る第一歩である事を、私たちはあの悲惨な3.11から学びました。

3.11あの日、千葉市の防災情報はどうだったのでしょうか？緊急時の情報伝達には、自動的に発信する防災無線(J-アラート)がありますが、修理中のため起動せず、地震による混乱のため手動でも起動できませんでした。一方、登録した人に自動的に流れる『ちばし安全・安心メール』は起動しました。これ以外に、携帯各社の協力で出来た『緊急速報メール』、ラジオ、テレビ等があります。

また、今年、全小中学校に、停電時の災害時通信手段を確保するため、PHSとデジタル無線機を配備する事になっています。

どのような過酷な状況においても、市民に正しい情報を迅速に伝えるシステムの構築が必要です。

市民が始める食品・土壌の放射能測定

千葉県初！

ちば市民放射能測定室 しらベル がオープン

福島第1原発事故から1年。放射能汚染に対する関心が高まる中、4月1日から食品中の放射性セシウムの新基準値が適用されています。一般食品は1kgあたり100ベクレル、飲料水は同10ベクレル、牛乳と乳幼児用食品は同50ベクレルと、これまでより大幅に厳しくなりました。

放射能という見えないものに対し、特に小さいお子さんを抱えた親御さんは不安を感じています。そこで、市民自身が正しい知識を身につけて、自ら判断していくお手伝いをしたいと、有志が集まって「ちば市民放射能測定室(しらベル)」が開設されました(市民ネットワーク中央事務所跡)。

開所式には約50人が参加し、熊谷俊人市長も駆けつけてくれました。「市も連携して市民の安心、安全につなげたい」とのお話。高い数値が出た時は市に相談することで再検査をする可能性もあり、まずは責任ある正確な測定に努めていきたいと考えています。

測定は、一般食品や土壌など。火、木、金と第2、4土曜の午前10時から午後5時まで。サンプル量は約1リットルで測定時間は30分程度。料金は1サンプル3千円で会員割引有り。事前予約制。連絡先は「しらベル」(電話043・224・5013)。

小西由希子



測定結果について説明するスタッフ

◆ パートナーシップで取り組む 黒い粉塵

夏に市内に飛散する黒い粉塵が、昨年12月の議会で取り上げられました。環境局も実態把握へと動き出しました。市民サイドも、行政の動きに呼応して実生活での粉塵影響をモニタリングし、地域環境の全体像(飛散エリア)や年間の変化傾向を自ら把握することで、異常の発見に役立てます。データがあれば、企業や自治体との意見交換も進めやすくなり、お互いの役割をカバーし合う事ができるのです。発生源での対策が有効に出来ているかどうか、色々な側面から検証していくことで、本当に必要な対策への道筋をつけることができます。

市民モニタリングの概要を説明します。

1. フローリング用のウェットシートで網戸の粉塵を拭き取り、水ですすぎます。
2. 沈殿したものを小型のペットボトルに収めます。
3. このサンプルの底部を写真撮影し、土井(makko59@imts.tepm.jp)まで送信して完了。これを毎月月末に行います。(ブログで詳細掲示中、キーワード検索は：千葉市の粉塵 サンプルング)

解決には時間もかかります。今を生きる市民としては、粉塵について情報を得て、お家の掃除、そして体のこと、粉塵を避けるための工夫を、是非実践していきましょう。モニタリングへのご参加、お待ちしております。

土井麻記子

中央ネット代表挨拶

今、災害に対してどう備えるかは大きな関心事です。市民の目線、女性・子どもの目線から提案していきましょう。また、日々の生活に密着しているごみ減量問題なども、何が効果的なのか考えていきたいと思えます。

会員、通信の配布者の方々や、さまざまな形で協力して下さる人たちとのネットワークを元気なものにし、議会からの情報をわかりやすく届けていきます。

山崎邦子

市民ネットワークちば・中央事務所は市民ネットちばと同じ事務所に移転しました。どうぞ気軽にお立ち寄りください。

千葉市中央区中央 4-10-11 Aiビル5階